

現地ガイド用テキスト

ペニダ島の秘境——タマンサリ・レワ密林

ペニダ島の奥地に広がる**タマンサリ・レワ密林**は、島でも最も原始的な姿を保つ地域の一つです。鬱蒼と生い茂る熱帯雨林に覆われたこの密林は、豊かな生態系を誇るだけでなく、古くから島の人々にとって**信仰の対象**でもありました。

一方で、この森には簡単に立ち入るべきではないという考えも根強く残っています。これは、未知の自然環境に対する畏怖だけでなく、過去に迷い込んで行方不明になった者がいるという伝承が影響していると考えられています。

タマンサリ・レワ密林の特徴

豊かな植生とノニの森

タマンサリ・レワ密林には、島内でも特に多様な植物が生息しています。その中でも特筆すべきは、**ノニ (Morinda citrifolia)** の自生地として知られていることです。

ノニはインドネシア全域で見られる植物ですが、**ここでは特に密度が高く、森の奥へ進むほどその数が増えていくことが特徴**です。地元の人々は、ノニを薬用として用い、果実や葉を健康維持や傷の治療に利用してきました。

また、密林内には巨大なシダ類や、地表を這うように伸びる根を持つ木々など、通常の熱帯雨林とは異なる植生も多く見られます。これらの特異な環境は、密林の奥地に行くほど気温や湿度が変化し、独自の生態系を形成しているためと考えられています。

密林に生息する動物たち

タマンサリ・レワ密林には、ペニダ島特有の生態系が広がっており、希少な動植物が確認されています。

この地域でよく見られる動物には、以下のようなものがあります。

- **ペニダヒメオオトカゲ**（地元では「ルス・トカゲ」と呼ばれる）
- **セアカテナガザル**（早朝のみに姿を現し、独特な鳴き声を持つ）
- **メガネフクロウ**（森の静寂の中で響く特徴的な鳴き声）

また、密林の一部では常に霧が立ち込める場所があり、視界が遮られやすいことから、地元では「物の怪が出る森」として警戒されています。

▲ アムリタ・スリング洞窟の歴史と現在の状況 ▲

タマンサリ・レワ密林の最奥部には、**アムリタ・スリング洞窟**と呼ばれる洞窟があります。この洞窟は、かつて島の僧侶たちが修行に用いたとされ、地元の信仰の対象となってきました。

◆ 洞窟の特徴と伝承

- 洞窟は、樹齢数百年以上のノニの木の根元に隠されていると言われています。
- 内部には湧き水が流れ、過去利用されていた遺跡が眠っていると言われています。

△ 現在の状況：土砂崩れによる立ち入り禁止 △

しかし、2020年の豪雨による土砂崩れの影響で、現在アムリタ・スリング洞窟への立ち入りは禁止されています。

土砂によって洞窟の入り口や道が塞がれ、内部への進入が困難になったことが確認されており、安全面の観点からも、一般の訪問者は立ち入ることができません。

△ タマンサリ・レワ密林を訪れる際の注意点 △

この密林を訪れる際には、以下の点に十分注意する必要があります。

1. ガイドなしでの単独行動は禁止

密林内は道が複雑で、霧の影響で視界が悪くなることもあるため、必ず地元のガイドと共に行動することが求められます。

2. 電子機器の使用制限

このエリアでは、スマートフォンやカメラの使用が禁止されています。これは、信仰的な理由だけでなく、湿度や磁場の影響で機器が誤作動を起こす可能性があるためです。

3. 軽装での参加が推奨される

密林内は湿度が高く、足場も不安定なため、大きな荷物を持ち込むことは推奨されていません。必要最低限の持ち物で行動し、動きやすい服装を選ぶことが重要です。

4. 日没後の立ち入りは禁止

密林内は日没後に急激に暗くなり、視界の確保が困難になります。霧が発生しやすく、安全のためツアーは日中のみの開催となっています。

まとめ

タマンサリ・レワ密林は、ペニダ島の中でも最も手つかずの自然が残る貴重な地域であり、特異な生態系や文化的価値を持つ場所として知られています。

しかし、近年の土砂崩れにより、アムリタ・スリング洞窟は封鎖され、現在は訪れることができません。

この密林を訪れる際は、単なる観光地ではなく、自然と信仰が交わる特別な場所であることを意識し、慎重に行動することが求められます。

